

## 2024. 5. 17 テントウムシとの関わりから

4月中旬、園庭のグミの木に黄色い粒粒を見つけたN子。

「先生、なんか黄色いつぶつぶあるよ！卵みたい」

教師は「これなんかの卵かな？」と一緒に考えます。すると、近くに黒い体のテントウムシが歩いています。ナミテントウです。すると、一緒にいたY男が「それ、テントウムシの卵なんじゃない？」と言います。

「えー？」とテントウムシの本で調べに行きます。すると、まさしく写真と一緒にです。

「ほんとだ！テントウムシの卵だ！」感動が生まれていました。

その後、テントウムシの幼虫を観察したり、それを本で見たりと少しずつテントウムシへの興味も高まっていく子供もいました。

GW明け、園庭にナナホシテントウが出現し始めます。

それはグミの木ではなく、ジャガイモの葉っぱ、園庭周りの植えこみです。

ある女の子は、捕まえたテントウムシをカップに入れると、カップの上に葉っぱをつけ、「日陰を作ってあげてるんだ！」と言います。

テントウムシを想う、その姿がまた素敵です。

先日、「先生、なんかテントウムシ捕まえたんだけど、ちょっと色も模様も違うんだ！」と言いに来ます。

オレンジの体に、黒い斑点がいっぱいあります。

「これは何て名前のテントウムシなのかな？」とみんなに聞いてみると、

「つぶがいっぱいあるからツブテントウ？」

「ゴマみたいな模様だからゴマテントウ？」「テンテントウ？」…どんどん名前が出てきます。

モニターで検索をしてみると、その名前は「テントウムシダマシ」。

「ダマシ」ってなんだ？また新たな不思議が出てきます。

そして、その「テントウムシダマシ」は草食で、葉っぱを食べるそうです。だから野菜にとって害虫です。

「ナナホシテントウ」はアブラムシを食べる肉食だそうです。「肉食ってティラノサウルスと一緒にだ！」「フクイラプトルもやよ！」と子供たちの中で恐竜の世界とのつながりが見えてきます。

次の日、保育室ではテントウムシを折り紙で折っている子もいます。紙皿で作る子もいます。遊びが広がっています。

生き物コーナーの前では子供たちがテントウムシの前にぎわついています。「いっぱいテントウムシ入れたけど、これ餌がないと死んじゃうよね…」「ナナホシテントウって肉食だったよね！アブラムシいっぱい食べるんでしょ！」「アブラムシ捕まえてこよ！」とアブラムシ探しが始まります。

前までいたテントウムシがいたグミの木はもうアブラムシはいません。じゃがいもの葉っぱや植え込みにもない。

S子が「この草のところでテントウムシ捕まえたんだー」ということで、そこへ行ってみると、ハルジオンの茎や葉っぱにアブラムシを発見！「やった！アブラムシいたー！！」

「えさがあるから、テントウムシはここにいたんだね！」子供たちの気づきがどんどん深くなっていきます。

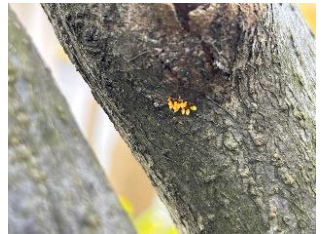
アブラムシはとっても小さいので、ハルジオンの葉や茎を凝視しながら探します。探す姿は真剣そのものでした。

「テントウムシ」をただの「テントウムシ」として終わるのではなく、いろいろな関わり、発見、気づきを通して、「テントウムシ」の周辺世界を探索していきます。

「テントウムシ」にはいろいろな種類があること、餌の違い、いる場所の違い、4月はナミテントウだけでしたが、今になってナナホシテントウがほとんどになる不思議さ、「ダマシ」の存在。

探索、探究を通して、まだ知らなかった世界の扉を開けていきます。

そのプロセスを通して、生き物の世界の不思議さ、面白さ、壮大さを感じてほしいです。



教師も一緒にプロセスをゆっくりと歩みながら、子供たちにとって一つ一つが豊かな体験につながるように支えていきたいと思います。

